

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する再意見書

再意見提出者	株式会社 熊本県民テレビ
--------	--------------

No	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
	FPUやラジオマイクをホワイトスペースに移行する、という意見があります	<p>FPUやラジオマイクはテレビ局の報道取材や番組制作で多く使用している。</p> <p>熊本県は有明海を挟んで長崎、佐賀、福岡と対面しており、電波の稠密な地域である。このため、テレビ周波数のホワイトスペース利用については、送信側でTV電波に妨害を与え、受信側で妨害を受ける可能性があるため、周波数検索機能と送受信機の広帯域化が必要になるなど開発上の課題が大きいと思われる。</p> <p>特にラジオマイクは、ウィークデーの午後放送している地元密着の情報ワイド番組で県内各地からの中継や取材で毎日使用しているものであり、視聴者のテレビ受信環境に近い場所（商店街や住宅街）でも多用されていることから、小電力であるものの、視聴者（テレビ受信）に対する影響は大きいと考える。</p> <p>これら技術的な課題を整理、解決できる見通しがない中で出される移行についての意見や議論は当該事業者としては大変遺憾である。</p>
	TV帯を更なる圧縮（再リパック）せよ、との意見があります	<p>地上デジタル放送のチャンネル選定は、「全国地上デジタル放送推進協議会」が中心となり、長年の検討を重ねた上で制度化されたものであり、削減は極めて困難である。現在も新たな中継局建設でDD混信が報告されており、アナログ停波後も混信対策のためのリパッキングチャンネルが必要な状況が続いている。</p> <p>また、有明地区は、電波密集地域のためリパック周波数選定も問題が多かった地域である。再リパックには、エリアも広範囲に及び、視聴者にも多大な影響を及ぼすことが懸念される。以上のことから再リパックは困難といわざるを得ない。</p>